

JPDA 1月定例理事会議事録

日 時：令和2年1月28日（火）午後1時～午後5時

場 所：文京シビックセンター(区民会議室) 5階 会議室A

東京メトロ丸ノ内線・南北線「後樂園」駅前

出席者：理事24名中20名（伊藤 透、井上 聡、加藤芳夫、青木（入江）あずさ、
牛島志津子、畝野裕司、江藤正典、小川裕子、加藤（桑）和美、小原 司、
鈴木智晴、高田知之、竹内清高、中越 出、永田麻美、信藤洋二、藤田 隆、
三原美奈子、八木勇達、山崎 茂）

監事2名中1名（時田秀久）

欠席届5名（池田 毅、梅原 真、小川 亮、中森恭平、森 孝幹）

議事録署名人： 伊藤 透、井上 聡、
時田秀久

議事の経過

定款第31条(議長)により伊藤理事長を議長に選出し、議長は直ちに本日理事会出席者21名を確認、定款第32条(決議)による出席者が過半数に達していることを確認し、定款第34条により議事録署名人が伊藤透理事長、井上聡副理事長、時田秀久監事の3氏であることを確認し、議事に入る。

(承認事項はゴシック、議案協のPは議案書の該当ページ)

第1号議案 新入会員入会審査の件

本日の理事会までに、個人3人から入会申込みがあり、定款6条（会員資格の取得）並びに会員規定に基づき入会審査を行い、下記の入会を承認した。

(1) 個人会員（3人）

<西日本>

1. 細川 華世（ほそかわ かよ）【推薦者＝中村 拓哉】
2. 上田 佳子（うえだ よしこ）【推薦者＝中越 出】

<東日本>

3. 道上 泰葉（みちかみ やすは） 【推薦者＝丸橋 加奈子】

第2号議案 再入会員入会審査の件

本日の理事会までに、個人1人から再入会申込みがあり、定款6条（会員資格の取得）並びに会員規定に基づき入会審査を行い、下記の入会を承認した。

(1) 個人会員（1人）

<東日本>

1. 古城 晴美（ふるき はるみ）

（平成30年12月に体調不良のため退会したが、現在は体調が戻ったため）

第3号議案 休会承認の件

本日の理事会までに休会届けを出した下記の個人会員1人の休会を承認した。

(1) 個人会員（1人）

<東日本>

1. 石井 ももこ（いしい ももこ）【令和2年1月～令和2年12月】

（所属している会社が法人会員であり、個人会員を継続すべきかを検討したいため）

第4号議案 退会承認の件

本日の理事会までに退会届けを提出した下記の法人会員2社、個人会員3人の退会を承認した。

(1) 法人会員（2社）

<東日本>

1. ブランドコム株式会社 【令和元年11月末退会希望】

（会社解散のため）

2. 株式会社 圖庵 【令和2年1月末退会希望】

（会社廃業のため）

(2) 個人会員（3人）

<東日本>

1. 原 洋介（はら ようすけ） 【令和元年月退12月末退会希望】

（一身上の都合により）

<西日本>

2. 加納 守康（かのう もりやす） 【令和元年12月末退会希望】

（一身上の都合により）

3. 松尾 正巳（まつおか まさみ） 【令和元年12月末退会希望】

(病気療養中のため)

第5号議案 正副理事長報告

伊藤理事長、井上副理事長、加藤専務理事より、現状の活動状況について以下の報告があった。

- 伊藤理事長報告
- ・ 12/1 P&Pギャラリー「現代日本のパッケージ」講演会に登壇
 - ・ 12/2 60周年企画展打合せ
 - ・ 12/3 ASPaC決勝審査 (GD丸の内)・代表者会議・歓迎会
 - ・ 12/4 オリソパック、ASPaCフォーラム・レセプション
(国際フォーラム)
「オリソパックで台湾の国旗がステージ後ろに掲示されていたことに対し、中国の代表者からクレームがついた。結果、この国旗ははずされたが、難しい問題なので、今後配慮することが必要」というコメントがあった。
 - ・ 12/5 ASPaC展覧会オープニング (GD丸の内)
 - ・ 12/6 東日本委員会
 - ・ 12/18 委員会再編についての打合せ
 - ・ 12/23～24 日本国際博覧会 ロゴマークデザイン審査会
 - ・ 1/7 60周年企画展打合せ
 - ・ 1/9 東日本委員会
 - ・ 1/28 60周年 APD in NARA 内容委員会・定例理事会・新年デザイン交換会
 - ・ 1/31 JPC審査会に出席予定 (日本印刷会館)
- 井上副理事長報告
- ・ 12/4 オリソパック、ASPaCフォーラム・レセプション
 - ・ 12/5 ASPaC展覧会オープニング (GD丸の内)
 - ・ 12/16 西日本委員会
 - ・ 12/17 出版委員会
 - ・ 12/18 委員会再編についての打合せ
 - ・ 1/28 60周年 APD in NARA 内容委員会・定例理事会・新年デザイン交換会
 - ・ 2/10 ASPaC受賞作品大阪展 設営・オープニングパーティ
西日本新年交流会
- 加藤専務理事報告
- ・ 11/23 碓井氏 偲ぶ会
 - ・ 11/26 JPDAマガジン取材 (荻野丹雪氏アトリエ：大阪)
 - ・ 11/27 JPDAパッケージデザインの学校研究取材 (近江商人博物館)

- ・ 12/1 P&Pギャラリー「現代日本のパッケージ」トークショー
- ・ 12/2 60周年企画展打合せ
- ・ 12/3 ASPaC決勝審査（GD丸の内）・代表者会議・歓迎会
- ・ 12/4 オリソパック、ASPaCフォーラム・レセプション
- ・ 12/5 ASPaC展覧会オープニング（GD丸の内）
- ・ 12/11 美味しい東北パッケージ展 フォーラム、表彰式（仙台）
- ・ 1/8 包装界賀詞交歓会（椿山荘）
- ・ 1/8 日本印刷産業連合会新年交歓会（The Okura Tokyo）
- ・ 1/28 60周年 APD in NARA 内容委員会・定例理事会・新年デザイン交換会
- ・ 1/31 JPC審査会に出席予定（日本印刷会館）

第6号議案 令和2・3年度役員選挙結果報告と今後のスケジュール

渡邊事務局長より、資料に基づき、1/10に開票した令和2・3年度の役員選挙の結果報告と今後のスケジュールの案内があった。

- ・ 今回は投票総数が257票であり、投票率は33.8%（有権者数760名）であった。
- ・ 開票結果では、理事の定員数（22名）のうち、サービス業が11名、その他産業が11名だったが、公益性の観点からその他サービス業がデザイン業を2名上回らなければならないという規定に則り、非当選者の中でその他産業の投票上位2名（石浦弘幸氏と江藤正典氏）が繰り上げ当選となった。（詳細は議案書P. 23参照）
- ・ その結果、次期役員は現在と同様の理事24名（最大25名）、監事2名となり、新理事は東日本個人会員の石浦弘幸氏、西日本個人会員の松尾政明氏、中日本（愛知・岐阜）の伊藤雅文氏の3名、新監事として中・西日本の藤田隆氏1名が選出されている。
- ・ 今後のスケジュールでは2月初旬に全会員宛に開票結果公報を送る予定。次回3月の定例理事会には新理事3名にオブザーバーとして出席いただき、5/29(金)の定例総会で承認されれば、総会後の臨時理事会で代表役員の互選を行い、全役員26名（理事24名、監事2名）から必要書類を提出いただいた後、6月上旬に新役員の登記を行う予定である。

第7号議案 事務局報告

渡邊事務局長より、資料に基づき以下の事務局報告があった。

1. 会員移動状況について

- ・ 残念ながらご逝去された会員3名（碓井健司(たけし)氏、江木 裕(ゆう)氏、三澤國家氏）を退会とした。
- ・ 1995年から※永久休会となっている個人会員2名のうち、全く連絡がとれない谷津松枝

氏は1月末退会とし、中林 基(おさむ)氏は今月中になんらかの連絡来ない場合、1月末退会としたい。

※通常休会は2年間だが、病気療養中等で長期の休会となる会員を永久休会と呼んでいる。

2. 2020（令和3）年度予算の2回目報告（詳細は議案書P. 28～30参照）

- ・ 11月の第1回報告から、創作展-JPDA60周年記念作品集の作成を検討した展覧会委員会、HPリニューアル費用が予定を若干上回る見込みのインターネット委員会、2021年1月のJPDA大賞贈賞式後の東京パック（東京ビッグサイト）での巡回展を検討したい事務局・コンペティション委員会から、60周年積立金の拠出増額の要請があり、令和2年度の予算案は以下のとおりと考えている。

経常収益：9,074万円（60周年積立金取崩1,800万を含む）

経常費用：8,932万円（公益費用※：6,478万、公益比率：72.5%）

※公益費用に60周年積立金取崩1,662万を含む

経常増減：+142万円

経常外増減：- 50万円

一般正味財産増減額：+92万円

- ・ 収益の中の1,800万円の積立金の残額は138万円あり、管理費を含めてさらに精査した最終予算を3月の理事会に提案する。

3. セミナー参加費、コンペ・展覧会等の出品料について

- ・ 2019年9月の理事会で今後の考え方を提案したが、運用面で、セミナー等で参加者の見込み数が70名以下で当日現金での徴収を基本とする場合は、税込価格を1,000円、3,000円等のキリのいい数字にしても可とする。
- ・ 但し、参加者数が70名を越える大規模なセミナーや、コンペ・展覧会等出品料など、請求書による徴収が基本となる場合は、キリの良い税込み価格に消費税10%を加えた金額を参加費としていただきたい。(例)3,300円（税込）

4. 事務局のPCの買い換えについて

- ・ 現在、会費の自動振替システムや内閣府への電子報告で使用しているWindows 7（平成24年7月購入）のPCのメンテナンスが今年終了することもあり、2月に買い換えたいと考えている。なお、208,780円の本体価格（税込）は一括購入とし、資産リストに加える予定である。

5. 今後の理事会・総会（議案書P. 26参照）

6. 60周年事業のまとめと年間スケジュール（議案書P. 31参照）

- ・ 6つの事業の日程が全て決まったので、スケジュールを確認して他のイベント等の告知に活用していただきたい。

7. その他報告事項

- ・全会員宛てに会員名簿の送付が終了したこと、及び、雑誌『月刊 カートンボックス』の掲載記事の紹介。

8. 配布物関連（議案書P.27参照）

第8号議案 委員会報告

<決済事項>（2件）

● 西日本勉強会「あえる」Vol.3の収支報告

- ・三原理事に代わり、渡邊事務局長より11/9に開催された西日本勉強会Vol.3の報告があり、以下の収支報告が承認された。

公益会計：収入 184,000円、支出 366,571円、協会補助金 62,500円、
収支差額 △120,071円

● APD代表者会議

- ・森理事が欠席のため、渡邊事務局長が11/8に行われたAPD代表者会議についての収支報告の資料を代読し、以下の収支報告が承認された。

公益会計：収入：0円、支出 743,637円、協会補助：630,000円、
収支差額：△113,637円

法人会計：収入：0円、支出 315,576円、協会補助：270,000円、
収支差額：△47,576円

<報告事項>

○ 東日本

- ・竹内理事より、1/28の理事会後の新年デザイン交換会チラシを参照しながら、第一部の講演者等の紹介と第一部・第二部のスケジュールが案内された。
- ・また、資料に基づき、2/21(金)に新木場S0-K0において開催予定の東日本トークカフェ「先輩×後輩」の概要が案内された。

○ デザイン保護

- ・高田理事より資料に基づき、ホームページの更新状況、3回の開催を予定している知財塾の概要、2020年度の活動計画についての報告があった。
- ・1回目の知財塾は2019/11/26に東洋インキ会議室において開催されたが、塾生は13名（法人会員9名、個人会員2名、一般2名）となっており、2月に2回目、4月の3回目もこの13名の固定メンバーが受講する予定。（内容詳細は議案書P.45参照）
- ・2020年度は6月に新人向けの知財セミナーを考えていたが、6月開校のパッケージデザイン学校の内容に近いので、内容も再検討して9月以降に延期する予定。

○ インターネット

- ・中越理事より、資料に基づき、JPDAサイトの更新状況、今後の掲載予定、2020年に予定しているサイトリニューアルの進捗状況、2020年度予算についての報告があった。
- ・QRコードで関連サイトにつながるものとして、You Tubeにアップしたパッケージデザイン学校の動画、経産省のサイトで確認できる「中小企業等に対する時間外労働の上限規制について」等の周知徹底依頼事項がある。

動画については、「声のアーカイブ」のように、ユーザー数が限定されている会員ページでは公開しているが、制限がない動画はサーバーのアクセス障害リスクがあるので、直接サイト上には置かず、リンクを設定して見るができるようにしている。

- ・7年ぶりとなるサイトリニューアルを進めているが、7年の間にインフラやセキュリティが大きく変化してきており、予想外に費用がかかっている。今後は5年程度でのサイトリニューアルが望ましいと考える。

現在見積もりを取った3社のうちの1社に絞り込んでいるが、予想以上の費用が見込まれるため、来期の当初予算に上乗せをお願いしているところである。

- ・リニューアル後のサイトは大きく以下の4つから構成される。
 - ① JPDAの紹介・情報公開・JPDA大賞、出版物等を掲載する「本体（オフィシャル）サイト」
 - ② イベント情報（告知&レポート）を掲載する「活動情報サイト」
 - ③ 情報の森・デザイン保護関連・アーカイブ等を掲載する「情報ライブラリーサイト」
 - ④ すでにリニューアルが終わっている「マイワークス」
- ・スケジュール的にはほとんどが今年度中に終了するが、既存サイトのコンテンツの一部を引っ越しさせる作業があり、5月の総会前には全てが終わるようにしていきたい。

○ 調査研究

- ・中越理事より、資料に基づき、2018～2019年度の活動（テーマは「社会課題とパッケージデザイン」）についての報告があった。昨年3月に第1回、9月に第2回の研究会を開催したが、この3月17日（火）に「サステナビリティとパッケージデザイン」をメインテーマとした3回目（このテーマでは最後となる）の研究会を予定している。
- ・2020年度についてはイベントは開催せず、2021/2/24～26に東京ビッグサイトで開催される東京パックにJPDA調査研究委員会として出展する予定である。

○ アスパックウィーク

- ・森理事欠席のため、渡邊事務局長より、資料に基づき、12/4～12/7のアスパックウィークについての活動報告があった。
- ・12/4に今回初めての開催である「オリンパック」（欧米・アジアの18カ国地域が参加）とアスパック（今回からインドが加わり11カ国・地域から4,000を超えるエントリーがあった）の授賞式+レセプション。12/6～入賞作品の展覧会と企業訪問と盛りだく

さんな内容であった。

- ・終了後、朝日新聞を中心に「オリンパック」・「アスパック」についての記事が掲載された。アスパックウィーク終了後は毎回記事が掲載されているので、今後はJPDAも参考にしていきたい。
- ・江藤理事より、今回のグランプリは久しぶりに日本人が受賞したとの補足があった。

○ 出版

- ・山崎理事より、資料に基づき、2019/9/28～12/8に印刷博物館で開催された「現代日本のパッケージ展」と期間中の12/1に開催されたトークイベントについての報告があった。

期間中の入場者数は9,558名（159名/1日）で前年を上回り、12/1に開催したトークイベントも大変好評だったとのこと。

- ・引き続き、現在進行中の『Package Design Index 2020 「Our Best Works」』の進捗状況においての報告があった。

現時点で、確定掲載者数は145社（474ページ）で制作ページは当初の計画400ページを上回っている状況。また、パッケージについて語っていただく寄稿者を多方面から募っているが、現在18名ほどになっているとのこと。

3月末完成予定で販促用チラシを作成中だが、4/1～3の「コンテンツ東京」（東京ビッグサイト）のJPDAブースで一般の来場者に配布し、会員へは3月に発刊の広報誌『JPDA マガジンVol. 04』と同梱して配布する予定。

○ コンペティション

- ・小原理事より、資料に基づき、「日本パッケージデザイン大賞2021」に向けた準備についての現状報告があった。
- ・特別審査員4名が決定し、一次二次審査員49名とともに全ての審査員が決まったところ。（詳細は議案書P. 58）
- ・今回初めてとなるオンライン画像審査（一次審査）のため、一次審査員49名のPCの環境調査や審査方法ガイダンスの作成、審査員へのサポート体制の構築等の諸準備を進めている。
- ・スケジュール的には、応募期間は3/2の9:00am～4/3の17:00まで。4/3は17:00きっかりにシャットダウンするので、応募される方は注意してほしいとのこと。

○ 展覧会

- ・牛島理事、小川（裕子）理事より、資料に基づき、2016年の第1回～2020年の第3回創作展の作品集を60周年記念事業として新たに制作したいので、当初は予定していなかった60周年事業の積立金から536,000円の取崩をお願いしたいという提案があり、理事会の了解を得ることができた。

スケジュールについては、東京（渋谷ヒカリエ）の創作展(9/10～22)前までに完成させて、出品者に配布するとともに、来場者への販売も考えたいと思っている。但し、今のところ一般の販売までは考えていないとのこと。

- ・牛島理事より、「制作を考えるに当たり、過去の出品者にアンケートをとったところ、掲載費を払っても作品集はあった方がよいという意見の出品者が多かったので、制作を進めることとし、協力金（掲載料）5,000円（税別）を徴収するようにしたい。」との報告があった。

因みに、2020年（3回目）は出品料20,000円＋作品集協力金5,000円（いずれも税別）。今回は出品しないが1・2回目には出品し、作品集に賛同する人は協力金のみをお支払いいただくこととするとのこと。

1ページに1作品掲載とし、1・2・3回の創作展全てに参加された方は3ページ分の掲載となる。（協力金は5,000円で変わらず）

- ・伊藤理事長より「基本的には賛成するが、一つ懸念があるとすれば写真のクオリティである。また、応募要項に60周年のロゴを入れ、記念事業であることを明記してほしい。他の60周年事業も同様をお願いしたい」との指示があった。
- ・写真については、牛島理事、小川（裕子）理事から「作品そのものが撮影されたものを使用し、イメージ画像は対象外としたい。したがって、展覧会前に写真を送っていただくように考えている。」との回答があった。
- ・山崎理事より、「一般での販売については六耀社に相談してみても」とのアドバイスがあった。販売については、価格設定も含めて事務局と進めることとする。

○ 60周年企画展

- ・加藤専務理事より、スライドで2020/8/1～10/4に印刷博物館で開催予定の60周年記念事業企画展「日本のパッケージ 縄文から弥生のデザイン遺伝子 複雑とシンプル」の告知用グラフィックの紹介があった。
- ・最終的に商品写真はイラストになるとのこと。

○ 60周年パッケージデザイン学校

- ・小川（亮）理事が欠席のため、学校長である加藤専務理事より、資料に基づき、現状報告があった。すでに仮予約を含めて22名の申込みがあり、すでに予算の損益ラインを越えてきているとの報告があった。
- ・学校の案内告知は2019年9月の「現代日本のパッケージ展」をスタートに、多くのJPDAイベントや外部展示会でパンフレットを配布してきた。2月以降も申込み締切の5/21まで、目標の40名に届くまで同様の動きをしていくが、（公社）日本マーケティング協会が会員へのメルマガ送付、協会イベントやセミナー等の会場での配布等で協力してくれることになったとのこと。（日本マーケティング協会の会員は一般の受

講費220,000円から30,000円低い190,000円（税抜き価格）

- ・さらに、インターネット委員会からのアドバイスや協力のもと、新たに案内動画を作成し、JPDAホームページからリンクできるYou Tubeで見られるようになっているとのこと。理事会後の賀詞交換会でも案内する予定。

○ APD（アジアパッケージデザイン会議）

- ・井上副理事長より、口頭で以下の報告があった。
- ・午前中にAPD内容委員会が終わったところであり、夜の賀詞交換会で参加者にAPDの概要を案内することになっているが、理事会では以下の2件についてお願いしたい。
 - ① 11/13(金)午前中の各国エリアレポートのところで、調査研究委員会に、昨年度から進めている研究テーマ「社会課題とパッケージデザイン」をとりまとめた発表をお願いしたい。（15～30分程度）
 - ② 創作展の奈良会場内にAPD関係の展示スペースをとることで進めているが、会場への搬入・搬出の時間帯や展示会場でのセキュリティーなど、いくつかの課題があるため、これから展示会委員会と相談させていただくことになると思う。また、創作展会場にAPDのテーマ「Think Design Future」に見合う法人の技術コーナースペースを設けたいと考えており、別途相談させていただきたい。

第9号議案 デザインを強くする委員会活動（委員会再編について）

井上副理事長より、議案書資料に基づき、これまでの議論のまとめと今後の委員会再編の考え方についての提案があった。

<提案内容の骨子>

- ・前回は、現在15ある委員会を大きく「価値創造委員会」、「学習交流委員会」、「情報発信委員会」の3つに統合し、新たに中長期の戦略を考え、組み立てる「未来計画委員会」を設置するという提案を行ったが、よりわかり易い表現にした「**研究コンペ委員会**」、「**まなび交流委員会**」、「**ひろめる価値委員会**」と、「**みらい計画委員会**」にしたい。

これにより、いままでの委員会毎の部分最適から協会組織としての全体最適を目指す方向へとシフトさせることが可能になるとともに、JPDAの役割と活動がいつでも意識できるようになると考えている。

- ① 「**研究コンペ委員会**」の役割は『優れたパッケージデザインとは何かを研究とコンペを通して探求する』こととし、活動としては現在の**調査研究・デザイン保護・アーカイブ・コンペティション委員会（巡回展・年鑑の出版までを含む）**に対応したものとす。
- ② 「**まなび交流委員会**」の役割は『学びと交流を通して同じ価値観を持つ仲間の輪を広げる』こととし、活動としては現在の**国際交流（APD・アスパックを含む）・国内**

交流（デザイン会議）・地域（東中西日本・東日本復興支援）、教育委員会に対応したものとす。なお、60周年事業の一つであるパッケージデザインの学校もこの範疇に属する。

③ 「広める価値委員会」の役割は『パッケージデザインの価値を目に見えるかたちや分かり易い言葉にして発信する』こととし、現在の広報・出版・インターネット・展覧会委員会の活動を統合し、協会全体のコミュニケーション戦略を組み立てることを目標とする。

④ 4つ目の「みらい計画委員会」の役割は『協会の未来図を描き、それを目指して組織や事業を中長期で計画し推進する』こととし、現在の総務委員会と事務局の活動とリンクさせる。

- ・協会理事はこれらのどれか一つの委員会を担当し（任期は連続3期=6年まで）、担当委員会の活動方針、予算計画の策定を行う。委員会担当理事はそれぞれの委員会の委員長を選出するとともに、部会（現在の委員会に相当）の編成を行う。
- ・また担当理事は部会の部会長を選出し、JPDA全会員にどこかの部会に所属するよう積極的に働きかけるようにしていきたい。
- ・部会は実際の活動計画を組み立て実行に移すとともに、広報資料と実施記録の作成を行い、担当理事は理事会で終了後の活動報告を行う。
- ・スケジュール的には、前回説明したように、**2020年度は現在の委員会が、現在検討されつつある予算案に基づく活動を推進**していくが、新委員会については今年度中にその検証議論をスタートさせ、新役員が決まったあと、

① 5月末の総会で新委員会計画を発表

② 7月以降に2021年度の各委員会の活動方針・予算案の検討をスタート

③ 10～12月に現在の委員会に所属する委員に2021年以降の委員会活動の説明を行い、委員会内の部会の組織化と部会長の選出を行う

④ 2021年の1～3月に部会の編成を行って、具体的な実施に向けた準備を行っていく

⑤ 2021年4月から新体制をスタートさせる

こととしたい。

<出席理事・監事からの意見（敬称略）>

- ・各委員会の担当理事から委員長を選ぶのはわかるが、担当理事がその下部組織である部会の専任理事になることはあるのか。（伊藤）
⇒各部会の中で担当理事が部会長として選ばれるのならばそれはあり得るが、その場合でも担当理事はその部会だけを考えるのではなく、あくまでも委員会全体のことを考えながら発言・活動するようにお願いしたい。（井上）

- ・委員会担当理事はその委員会全体のことを考えることは理解できるが、全ての部会に顔をださなければならないとなると時間的に厳しいと思う。(小川(裕子))
⇒担当理事全員が全ての部会に出席するというのは現実的とは思えない。確かに各理事が委員会にある部会の中で重点的に見ていく部会があってもやむを得ないが、そこを軸足にしてしまうと今までの委員会活動と変わらなくなってしまうので、担当理事が新しい委員会の活動方針・予算を決めるようにする意識は忘れないでいただきたい。(井上)
- ・初めに担当理事がその委員会の活動方針・予算を議論し方向性を決めたあとで、部会に案内することはよいことだと思うが、部会長と担当理事が別の人になるよりも、部会長はその委員会の担当理事が勤めた方がスムーズに行くのではないかと。(加藤)
- ・それは同感。部会長＝担当理事でなくてもよいが、部会の担当理事を決めるのが現実的だと思う。また、3つの委員会に委員長は必要なのだろうか。(小川)
- ・やはり全体の窓口(例えば議長のような立場)としての委員長は必要なのではないか。但し、長期に渡ることは好ましくない。また、決まったことを下に流すトップダウンだけではなく、下の意見も取り入れるボトムアップも取り入れた双方向のコミュニケーションが必要だと思う。(伊藤)
⇒双方向は考えてはいたのだが・・・。(井上)
- ・提案の意図は理解できるが、議案書69ページの組織図を見ると、いままでの理事会⇒委員会担当理事⇒所属委員(一般会員)という比較的シンプルな組織にもう1階層増えたようで複雑に見える。
いままでのようにインターネット委員会のことだけを考えるのではなく、インターネットを使った広報活動全体を考えましょうという解釈でよろしいか?(中越)
⇒具体的なやり方は議論があるところだが、主旨はそのとおりである。(井上)
- ・「まなび交流委員会」の地域のことを考えると、東・中・西がいつも集まって議論するのは、移動費用と担当理事の物理的負担が大きくなるのではないかと。(加藤)
- ・地域間のやりとりはスカイプを使った会議で対応できると思う。(永田)
- ・理事会の日にそのような時間を設けることが効率的だと思う。(信藤)
- ・初めの1年は大変だと思うが、ルールに乗ってしまえばそれほどではないのではないかと。(伊藤)
- ・国際交流の海外視察を担当しているが、2021年の実施になる。この新体制になったあとそれはどうなるのか?(永田)
- ・すでに決まったものはそのまま進めてよいと思う。(伊藤)
⇒2020年の予算措置がされているものはよいと思うが、その後どうするかは「まなび交流委員会」でしっかりと議論していただきたい。(井上)
- ・これから進めようとしていることは何のためにやるのかをもう一度議論した方がよいと

- 思う。役員選挙やコンペ審査員の投票率も低く、会員がJPDAの事業に対し関心が薄くなってきているのではないだろうか。他のデザイン団体も会員数は減少傾向にあり、デザイン団体全体の問題になってきている。今回やろうとしていることが理事だけのためではなく、会員のための構造改革だとすれば、一度、会員にどんなことをやりたいのかを聞いてみてはいかがか。東京と地方ではニーズが異なっていると思うが・・・。(時田)
- ⇒その通りで、今やろうとしていることは会員のための構造改革だと考えている。(井上)
- ・会員にアンケートをとるのはよい機会かもしれない。(伊藤)
 - ・アンケートはメルマガでも可能だが、もしとるのならば数年毎に継続する必要があると思う。ある時点だけの一過性のアンケートはいかがなものか。(渡邊)
 - ・確かに会員のための改革であることはわかるが、アンケートの回収率は過去の例でも30%程度である。一方、会員でない人達を呼び込むことも視野に入れるのならば、その人達の意見を聞くのは難しく、JPDAをよく知ってもらいいろいろな発信していかなければならないと思う。(中越)
 - ・同感である。(井上)
 - ・理事になって20年ほどになるが、その間に委員会が増えてきている。但し、それは時代の要求に合わせたものだったと思う。一方で、それが単なる積み上げではなく、活動の仕方を事前に議論できる場ができることは有効だと思う。また、その議論が早めにされればより効果的ではないだろうか。(加藤)
 - ・今理事会前にAPD内容委員会をやっているが、その形で7月、9月に3つの委員会が議論できる場を設けるのも一つの方法ではないか。理事会の中だけではゆっくりとした議論はできないと思う。(渡邊)
 - ・これまで理事はある委員会だけを見ていたが、新しい体制では4つの部会を見ていくとなると物理的にかなりハードなものになる懸念があるのだが・・・。(小川)
 - ・新しい委員会の中でいままでの委員会のあり方や今後予算を含めてどこに重点を置くかを決める議論ができるのならば、逆にいままでの活動を省力化することもできるのではないだろうか。(牛島)
 - ・その議論は、いままでの活動を止める(少なくする)ことが前提ではなく、優先順位を決めることだとすれば、現実的どころに落ち着くと思うが・・・。(伊藤)
 - ・部会に入る会員にも、入ってよかった、やってためになったと思ってもらえるような活動にしていきたい。(小川)
 - ・スケジュール的には7月スタートでは遅いと思う。(牛島)
 - ・3月に試験的に議論を始めてはどうか。(伊藤・井上)
 - ・4つの委員会にするのは理解できるが、各委員会の委員長は相当ハードだと思う。(小原)
 - ・現在の委員会の担当理事で打合せを持ってはどうか。(加藤)

・担当が重複している理事はどうするのか？（江藤）

⇒それはどちらかを選んでもらうしかない。（井上）

・2020年については、重任理事は今の担当委員会を継続することが前提で、新任理事のみがどこの委員会を担当したいかを決めればよいのではないか。但し、60周年事業は今の担当を継続することとしたい。（伊藤）

・3月からの進め方は理事会前に別途相談させてほしい。（渡邊）

・3月の打合せ時に公益認定を申請したときの事業内容がわかるものを用意してほしい。（伊藤）

第10号議案 次回理事会開催について

伊藤理事長より、次回の理事会開催について以下の案内があった。

日時：令和2年3月11日（水）午後1時30分～5時30分

場所：文京シビックセンター（区民会議室）5階 会議室 C

東京メトロ丸の内線・南北線「後樂園」駅前

※ 当日は、役員選挙で新規に当選された理事3名、監事1名がオブザーバーとして出席される予定。

以 上